平成30年度東北地区指導者講習会　　伝達事項

平成30年5月19・20日：開成山弓道場　講師：窪田史朗範士、川村光良範士

＊公認資格認定制度資料集ｐ78

平成30年度指導方針

～弓道教本及び副読本に基づいた基本の徹底～

指導者の心得

1．日本弓道の指導者として、自ら至誠と礼節を体現し真善美を目指すこと

2．指導者の持つ影響力を自覚し、自身の言動の倫理性について常に注意を払うこと

3．指導に当たっては、自らが実践躬行（じっせんきゅうこう）すること

4．指導にあたっては、弓道教本および副読本に基づき全国的に統一された指導を行うこと

指導者の心得は昨年と同じです。

指導項目

1．「射法、射技の基本」に徹すること（教P99）

・基本の5項目を深く習得していく（弓の抵抗力・・・・）

・正しい射法八節を実践していく

講習会では、教本を基に行ってください。講師の個人的な意見は極力避けた方がよい。

昨年の指導項目も含めたうえで行っていってください。

（歩き方、跪坐及び開き足、本弭は膝頭、正しい狙い、矢束の引き締め、離れで弓が落ちない）

弓道誌2018年4、5月号に教本解説・上、下が詳しく掲載されています。（特に弓の抵抗力について）

2．「基本体の必要性」の実践（教本P62）

・動作の注意点（八項目）を習得していく

審査で見かけるのは、間延びです。相互の間が出来ていない人が多く見かけられる。

3．高段位者について

・更なる射品、射格を高めていく努力を怠らないこと

基本を正しく、基本を大切にする。教本1巻だけでなく4巻まですべて読んで先達者に学び、自己成長につなげてください。そして、審査眼を高めてください。

4．公認資格認定制度について

・平成30年度は「公認資格認定制度」施行の初年であるのでこの周知と定着を図っていく

・審判員など県大会レベルは、資格を持った方が行ってほしい

・矢羽の取扱いと準則は徹底して守っていってください。

・あらゆる暴力やハラスメントの根絶を図る。

・審査での審査員の見方を同じようにするためにも検討会をして頂きたい。

（どこで審査を受けても同じような基準となるためにも）

弓道誌2018年5月号には、平成30年度指導方針も掲載されていますし、アンチ・ドーピングについても掲載されていますので良く読んでください。

公認資格認定制度資料集のP105倫理に関するガイドラインを熟読し、守ってほしい。

現在、スポーツ界でいろいろな問題が起きています。弓道界でも起きないようにしてください。
（ｐ105～108　窪田主任講師が全文を読み上げる）

公認資格認定制度資料集　ｐ34　訂正、加筆
審査統一基準（五段以下）
備考欄　立射の襷さばきは行わない･･･削除（問答集の P14Q66 どちらでも構わないとの矛盾があるのではずした）関連して五段：体配　規矩に適った起居進退が身につき落着きある容儀、態度。和服着用、肌脱ぎ又は襷さばき（座射）の実施。・・・立射の襷さばきにはない。　審査ではやらない！
公認資格認定制度資料集　ｐ5～9
（１）審査委員（２）審判委員（3）講師公認資格認定規程・改定　平成 30 年 3 月 11 日
各三か所のウ　年齢は、原則として満 80 歳までとする。
年齢は、原則として 80 歳まで（4 月 1 日現在 80 歳以下）とする。に、変わりました。
（資格の有効期間及び更新）
第 8 条の（1）に追記
なお、しかるべき理由で更新のため講習会を受講できなかった場合、次の 1 年間に限り資格を継続できる。
（資格喪失・復活）
第 9 条　追加
３．定年により中央委員資格を喪失した委員は以後、認定講習を受講しなくても地方委員に登録できる。
附則　4　平成 28 年 11 月 29 日一部修正　→　一部改訂（日体協資格）
　　5　平成 30 年 3 月 11 日一部改訂（中央委員）

以上。

尚、詳しく知りたい方は、弓道誌 2018 年 5 月号のｐ10～　主任講師研修会講師研修会をお読み下さい

◎ 射礼研修　（持的射礼、立射礼、一つ的射礼）基本の気をつけるところ。
○持ち的射礼
射位から本座へ、本座から定めの座へ戻る際の後退の一歩目は小足で下がる（体位が崩れないようにする）
・立ち方は、立ちながら足を揃える。立ってから足を揃えるのはダメ。
○　立射礼では、
一足の時は　本座への後退　二歩三足
二足の時は　　〃　　三歩四足
矢番えまでは同時に行う。二番以降は前の弦音で弦調べをする
足踏みを合わせる。高段者になれば足踏みだけでなく、矢の持ち方、矢の打ち込みも合わせる方がよい。
○　一つ的射礼
本座への後退では内側の足で向きを変える（決まりごとではないが、体が崩れないようにするため）
男子は、肌脱ぎを終えた後、弓を打込む時左手で迎えに行かない。矢羽が体の脇に来ているかどうかで迎えに行ったかどうかがわかる。

以上

受講者　大西人実、髙井幸子、佐藤光三、安藤久美子、渡邊英史、蕪木昌宏、根本久美子